

鎌倉の埋蔵文化財21

Buried Cultural Properties in Kamakura 21

平成28年度発掘調査の概要



平成30年(2018)3月

鎌倉市教育委員会

～ごあいさつ～

私たちが暮らす鎌倉市は、源頼朝が武家政治を創始した地として知られ、中世に栄えた都市の跡をはじめとして、過去の人々の様々な生活の痕跡が地下に埋蔵文化財として数多く残されています。

これらの埋蔵文化財は、家屋の建築や、開発事業などさまざまな土木工事により失われてしまうことも少なくありません。これは、鎌倉の貴重な歴史遺産が失われることでもあり、非常に残念ではありますが、現代に生きる私たちが生活を営んでいく上では避けられないことでもあります。

このようにやむを得ず失われることとなる歴史遺産も、発掘調査を実施し、その調査成果と記録を着実に積み重ねて検証していくことで、鎌倉の歩んできた歴史の解明につながっていきます。

鎌倉市教育委員会では、発掘調査関係者の御協力を得ながら、この『鎌倉の埋蔵文化財』の発行をはじめ、遺跡調査速報展や鎌倉駅地下道ギャラリーでのパネル展、遺跡調査・研究発表会の開催などを通じて発掘調査の成果を広く御紹介しています。また、平成29年5月からは新たに開館した鎌倉歴史文化交流館で埋蔵文化財を展示しています。

この『鎌倉の埋蔵文化財21』では、平成28年度に実施した発掘調査の中から、6つの調査地点の概要を御紹介いたします。

これからも、さまざまなかたちで発掘調査の成果を広く御紹介してまいりますので、文化財の保護に対する御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

平成30(2018)年3月 鎌倉市教育委員会

～目次～

1 長谷小路周辺遺跡	(由比ガ浜三丁目194番1、262番1地点) ……………	1
2 北条時房・顕時邸跡	(雪ノ下一丁目265番2地点) ……………	4
3 若宮大路周辺遺跡群	(大町一丁目1084番1、1085番1地点) ……………	6
4 名越坂北やぐら群	(大町五丁目1988番2地点) ……………	8
5 今小路西遺跡	(由比ガ浜一丁目163番1地点) ……………	10
6 大倉幕府周辺遺跡群	(二階堂12番8地点) ……………	11
英文要旨	……………	12

～例言～

◎本書は平成28年度に市内で実施した主な遺跡の発掘調査の概要を掲載しました。

◎本書は鎌倉市教育委員会文化財課が執筆・編集しました。

◎本書の作成にあたり、次の方々の御協力をいただきました。深く感謝いたします。(敬称略)

有限会社ビックサークル、個人住宅の建築主の皆様、宮田眞(株式会社博通)、滝澤晶子(株式会社博通)、安藤龍馬(株式会社博通)、神奈川県教育委員会(4.名越坂北やぐら群の写真提供)

《表紙写真》 若宮大路周辺遺跡群(大町一丁目1084番1、1085番1地点)で発見された建物跡

◎表紙題字は松尾右翠氏にお願いしました。

1. 長谷小路周辺遺跡^{はせこうじしやうへんいせき}(由比ガ浜三丁目194番1、262番1地点)

Hase-Koji-Shuhen-Iseki Site

市内初の発見 6世紀頃の石棺墓

調査地点は江ノ島電鉄由比ヶ浜駅の北に約100mの場所に位置し、海から風で吹き寄せられた砂が堆積した砂丘帯の中にあります。発掘調査では、3世紀(弥生時代末)から15世紀頃(室町時代)までの生活の跡がみつかり、この間、砂丘の形状が大きく変化していたこともわかりました。形状の変化に伴って土地の利用方法も3世紀に集落であったものが、すぐに利用が止み6世紀頃(古墳時代)に墓域となります。9世紀頃(奈良・平安時代)には集落となり、13世紀(鎌倉時代)にはまた墓域と変わったことがわかりました。

特筆すべき発見として、神奈川県内で2例目、鎌倉市内では初めてとなる古墳時代の石棺墓の発見がありました。のこった人骨の状態は非常に良く、10代後半の女性だということがわかりました。石で組まれた立派な棺(石棺)に収められていたことから地域の重要な人物であったことがうかがえますが、埋葬品は発見されませんでした。

なお、この調査の直後に材木座でも同様の石棺墓が発見されました。

このような石棺墓は海洋民との関わりが指摘されています。海に面した鎌倉の歴史を考える上で重要な発見となりました。



写真1 調査区全景
(photo1) Aerial view of the site



写真2 古墳時代の石棺墓

(photo2) Stone coffin grave from the Kofun Period

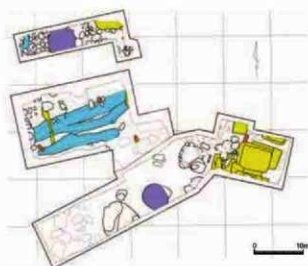


図1 中世の遺構配置図 (↑)

(fig1) Layout of the remains from the Middle Ages

- = 建物跡、住居址
- = カマド
- = 墓跡
- = 溝
- = 井戸

石棺墓
土坑墓

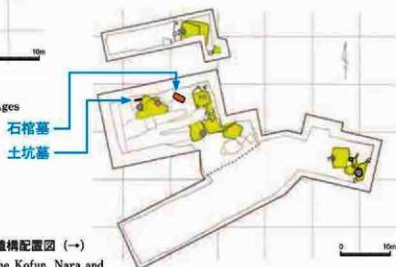


図2 古墳時代、奈良・平安時代の遺構配置図 (→)

(fig2) Layout of the remains from the Kofun, Nara and Heian Periods



写真3 古墳時代の石棺墓 検出状況
(photo3) Excavated stone coffin grave



写真4 古墳時代の土坑墓
(photo4) Burial pit of the Kofun Period

2. 北条時房・顕時郎跡(雪ノ下一丁目265番2地点)

Hojo Tokifusa/Akitoki Tei Site

北条氏の館の一部か

鶴岡八幡宮三の鳥居から南に約200m、若宮大路の西側に位置し、付近は鎌倉時代に北条氏の館があったとされています。発掘調査では、鎌倉時代(13世紀)～室町時代(15世紀)にかけての館の一角と考えられる遺構や若宮大路の側溝が発見されました。

現在の地表の標高は10mですが、当時の生活の跡は、標高7.5m～9mで、この間に複数見つかりました。最下層の生活面は現地表から2.5m低くなっています。13～14世紀と推定

される、標高8.0mから8.4mの間の生活面では、石と砂を敷き詰めて地面が固められ、若宮大路沿いには木組みの側溝が造られていました。幅は約2.5m、溝の側板が傾斜してしまうことを予防するひかえの材もみつかりました。また、若宮大路に直交する小さな溝や漆喰が塗られた井戸、土坑、柱穴、ほぞ穴がある土台材、土留めの側板、礎石列、礎板列、囲炉裏などが発見されました。



写真5 遺構検出状況(写真下が若宮大路側)

(photo5) Excavating the remains of the side ditch (Wakamiya-Oji is to the bottom of the photo)



写真6 若宮大路側溝の基礎材と側板のひかえの木組遺構 (写真左側が若宮大路)
 (photo6) Materials used for the foundation of the side ditch of Wakamiya-Oji and remains of wooden-frame strut for sideboard (Wakamiya-Oji is to the left of the photo)



写真7 井戸
 (photo7) A well

3. 若宮大路周辺遺跡群(大町一丁目1084番1、1085番1 地点)

Wakamiya-Oji-Shuhen-Isekigun Site

建物跡の下から…

調査地点はJR鎌倉駅の南東約400mに位置します。

ここでは、鎌倉時代(13世紀前半～14世紀前半)の建物跡、井戸、溝跡などがみつかりました。14世紀頃の建物跡が良好な状態でのこっており、鎌倉石[※]の切石を敷き詰めて石畳状に並べたものや、根太^{（きんた）}のこるものなど10棟が発見されました。

石が敷かれた建物跡の下からは13世紀前半頃に造られたと考えられる井戸が発見されました。角材を枠に組み隙間なく積み上げ、薄い板材を外側に当てがって90cm×90cmの井戸枠としています。この形状の井戸は鎌倉市内で初めて発見され、全国的にも珍しいものです。

※鎌倉石：堆積岩の一種。耐久性があり、石垣や石段によく使われる石材です。粒がはっきり見え、表面がデコボコしており、多孔質で保水性があるため、苔が付きやすくなっています。加工しやすいのですが、風化しやすい特徴を持ちます。岩石名としては8ページで説明している凝灰質砂岩で、それを加工したものを鎌倉石と呼びます。なお、現在鎌倉では採掘されていません。



写真8 上層の調査区全景

(photo8) Overview of the excavation of the upper strata



写真9 下層で検出された遺構群
(photo9) Remains excavated from the lower strata



写真10 建物跡の下から発見された井戸
(photo10) A well found underneath the remain of a structure

4. 名越坂北やぐら群^{なごさかきたやぐらぐん}(大町五丁目1988番2地点)

Nagoezaka Kita Yaguragun Site

最大級の五輪塔

調査地点はJR鎌倉駅から南東に約1.4km、逗子駅から北西に約2.1km離れたJR名越トンネル付近に位置します。平成26年に新たに発見されたやぐら群で、この発見により鎌倉市内の周知の遺跡は467カ所となりました。この遺跡では調査を行った1基を含め、現在までに6基のやぐらが発見されています。

今回の調査では、大型の五輪塔が立ったまま発見されました。水輪の納骨穴には、男性1体分の火葬骨が納められており、また、五輪塔の下からも納骨穴と考えられる穴がみつかりました。今回発見された五輪塔は現況の総高が127cmで、凝灰質砂岩^{ぎがいしつ}製の五輪塔としては比較的大きなものです。山の中腹を長方形に平場をつくり出し、その上にすえられていました。被葬者は、本やぐら群に埋葬された中でも、有力な人物であったと考えられます。

※凝灰質砂岩：砂岩は砂が固まってできた岩のこと。凝灰岩は火山^{きざつ}碎屑物が堆積してできた岩石の一種で、火山碎屑物より通常碎屑物(砂)が多く含まれているものを凝灰質砂岩という。岩は加工しやすく火に強い特徴をもつ。



写真 11 調査地遠景

(photo11) Excavation site from distance



写真 12 五輪塔
(photo12) Gorinto



写真 13 五輪塔に納められた火葬骨片
(photo13) Cremated bone pieces repositied in Gorinto

5. 今小路西遺跡^{いまこうじにし いせき} (由比ガ浜一丁目163番1地点)

Imakoji-Nishi-Iseki Site

常滑^{トコナメ}産大甕

調査地点は鎌倉駅の南西約700m、六地藏の交差点から西に約300mに位置します。

調査により古墳時代の流路跡と鎌倉時代の堅穴状の建物跡や大甕などが発見されました。

古墳時代の流路跡は人為的に掘られた溝の類ではなく、河川の跡と考えられます。流路跡以外の遺構は発見されませんでした。土器や石製の管玉など多くの遺物が出土しました。

発見された鎌倉時代の建物跡は床面積が6～15㎡の小規模なものが主体でしたが、土台の木材や柵の跡などが確認されたほか、建て替えが行われた跡もみつけられました。大甕は貯水用として利用されたと考えられます。今回発見された甕は容量が約400リットルの大きさのものでした。

※常滑：愛知県南西部知多半島の西岸に位置する、現在の常滑市付近で生産された中世の陶器を「常滑」とよんでいる。表面は赤褐色を呈するものが多く、薄く釉がかかるものもある。質は粗いが極めて強い。



写真 14 常滑産大甕 出土状況

(photo14) Pieces of Tokoname-style pottery storage jar

6. 大倉幕府周辺遺跡群(二階堂12番8地点)

Okura-Bakufu-Shuhen-Isekigun Site

鎌倉時代初期に利用されていた溝跡

調査地点は鶴岡八幡宮から東に500m、国指定史跡永福寺跡に向かう「二階堂大路」の南側に位置します。

「二階堂大路」の名は、『吾妻鏡』では1231年と1251年の火災の記事に登場します。大路の近くには鎌倉幕府第2代執権北条義時の「大倉亭」や、鎌倉幕府第4代将軍となる九条頼経の御所があったとも考えられています。

調査では鎌倉時代(12世紀末～14世紀前半)の溝、土坑などがみつかりました。発見された溝のうちの一つは幅2m×深さ1mを測り、溝としては比較的大きいため、二階堂大路に伴う側溝の可能性あります。出土した遺物から、12世紀末から13世紀前半の溝と考えられ、吾妻鏡に記載のあった頃に使用されていたと推定されます。文献が記すようにこの周辺に幕府要人の屋敷地が広がっていたのでしょうか。

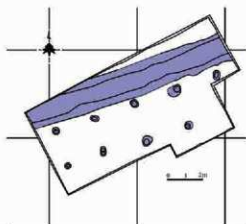


図3 遺構配置図(溝と柱穴)
(fig3) Layout of the remains (a ditch and pole pits)



写真15 発見された溝跡
(photo15) Remains of a ditch

Buried Cultural Properties in Kamakura 21

1. Hase-Koji-Shuhen-Iseki Site (Yuigahama 3-194-1 and 3-262-1)

The first stone coffin grave (ca. 6th century) found in Kamakura City

The excavated point is located in a sand dune 100m to the north of Yuigahama Station on the Enoshima Electric Railway. We discovered a residence site dating from the 3rd- to 15th century and found that the inhabitants used the land differently as the sand-covered area moved. It was a burial site in about the 6th century, changed to a settlement in about the 9th century, and then changed again to a burial site in the 13th century.

A noteworthy discovery is the stone coffin grave from the Kofun Period. This is the first case of such a grave being found in Kamakura City and the second such case in Kanagawa Prefecture. A woman in her late teens was buried there, who seems to have been an important person in the area, judging from superior quality of the coffin, but her relics were not found. Following this discovery, another stone coffin grave similar to this was found in Zaimokuza.

2. Hojo Tokifusa/Akitoki Tei Site (Yukinoshita 1-265-2)

Remains of Hojo clan residence?

The excavated point is located 200m to the south of San-no-torii (the third gateway to the shrine) of Tsurugaoka-Hachimangu shrine and to the west of Wakamiya-Oji avenue. The residence of the Hojo clan is said to have stood in the area during the Kamakura Period, and we discovered remains that are considered to be a part of the residence from the 13th- to 15th century. The elevation of the current ground surface is about 10m above sea level, but we found the oldest remains of habitation 2.5m below the ground surface. During the excavation, made at an elevation from 8.0m to 8.4m, we found that the then ground surface had been packed with stone and sand, and that wooden-framed side ditches had been built along Wakamiya-Oji. Remains of a plastered well, pole pits, materials used for foundations, erosion barriers, stone walls, and sunken fireplaces were also excavated.

3. Wakamiya-Oji-Shuhen-Isekigun Site (Omachi 1-1084-1, 1085-1)

From under the remains of buildings---

The excavated point is located 400m to the southeast of JR Kamakura Station. We discovered the remains of buildings here as well, and ditches from the Kamakura Period. There are 10 building, with some floors paved with Kamakura-Ishi stone and some with remnants of floor joists. From underneath the buildings we found a well which is considered to have been made in the early part of the 13th century. Frames made of baulk were tightly piled up and surrounded by thin wooden boards to create the well. This type of well is very rare in Japan and is the first case of such a discovery in Kamakura City.

Kamakura-Ishi

Sedimentary rock (tuffaceous sandstone—explanation given in page 8) is often used for stonewalls and staircases because of its durability. Fine particles are clearly visible on a rough surface, and moss grows on it easily since it is porous and retains water. It is relatively easy to cut and shape but susceptible to weathering. The name “Kamakura-Ishi” is applied to cut and shaped tuffaceous sandstone. It is not produced in Kamakura today.

4. Nagoezaka Kita Yaguragun Site (Omachi 5-1988-2)

Very large “Gorinto” (five-storied stone pagoda) found

The excavated point is located near JR Nagoe Tunnel, 1.4km to the southeast of JR Kamakura Station and 2.1km to the northwest of JR Zushi Station. The site is a group of ossuaries discovered in 2014, the 467th site excavated in Kamakura City. A total of six ossuaries have been found up to this point

on the site, we researched one of them this time and discovered a large Gorinto left standing. Inside one of the stories, the Ring of Water (each of the five stories was called a ring, representing earth, water, fire, wind, and universe,) an entire set of a man's bones was discovered in a cinerary pit. In addition, another pit was found underneath the pagoda. The height of Gorinto is 127cm, relatively tall for a structure made of tuffaceous sandstone. The buried person is considered to have been of higher-status among those buried in the ossuaries.

Tuffaceous sandstone

Tuff is a type of rock formed from sediments of volcanic detritus, and it is called tuffaceous sandstone when it has a higher sand content. It is relatively easy to cut and shape, and resistant to fire.

5. Imakoji-Nishi-Iseki Site (Yuigahama 1-163-1)

A large Tokoname-style pottery storage jar

The excavated point is located 700m to the southwest of Kamakura Station and 300m to the west of Rokujizo intersection. We discovered the trace of a stream from the Kofun Period, and remains of structures and a big pottery storage jar from the Kamakura Period. The structures were rather small with the floor area from six to fifteen square meters, and we found evidence of reconstruction. The big jar has a volume of 400 liters and was probably used to store water.

The trace of a stream from the Kofun Period is considered to have been a natural river. No other structures or remains were found, but many relics, including cylindrical beads and earthenware, were discovered.

Tokoname

Pottery produced during the Middle Ages in Tokoname, an area located in the Chita Peninsula of Aichi Prefecture, is called the Tokoname. It has reddish-brown surface, and some are thinly glazed. It doesn't have refined quality but is very solid.

6. Okura-Bakufu-Shuhen-Isekigun Site (Nikaido 12-8)

Remnant of a ditch used in the early Kamakura Period

The excavated point is located 500m to the east from Tsurugaoka-Hachimangu, to the south of "Nikaido-Oji" avenue that leads to Eifuku-ji temple site, a government-designated historic site.

"Nikaido Oji" appears in *Azuma Kagami* (historical chronicle of the Middle Ages) in the articles about the fire in 1231 and 1251. The palaces of Hojo Yoshitoki, Kamakura shogunate's second Shikken (regent) and Kujo Yoritsune, the fourth Shogun, are said to have stood near the avenue.

We discovered ditches and ground holes. One of the ditches was relatively large with 2m in width and 1m in depth and could have been a side ditch of Nikaido Oji, which was used during the period when the avenue was mentioned in *Azuma Kagami*, as relics indicate. It makes us wonder if huge residences of powerful people occupied the area at the time.



写真 16 長谷小路周辺遺跡 出土人骨

(photo16) Excavated human bones at the Hase-Koji-Syuhon-Iseki site



《掲載遺跡名称及び所在地一覧》

- | | |
|---|------------------------------|
| 1. 長谷小路周辺遺跡
<small>はせこうじりゅうへんいせき</small> | (由比ガ浜三丁目 194 番 1、262 番 1 地点) |
| 2. 北条時房・顕時邸跡
<small>けいじときふさあきときていあん</small> | (雪ノ下一丁目 265 番 2 地点) |
| 3. 若宮大路周辺遺跡群
<small>わきみやのちみちりゅうへんいせきぐん</small> | (大町一丁目 1084 番 1、1085 番 1 地点) |
| 4. 名越坂北やぐら群
<small>なごせがききたぐらぐん</small> | (大町五丁目 1988 番 2 地点) |
| 5. 今小路西遺跡
<small>いまこうじにしいせき</small> | (由比ガ浜一丁目 163 番 1 地点) |
| 6. 大倉幕府周辺遺跡群
<small>おおくらくらばうりゅうへんいせきぐん</small> | (二階堂 12 番 8 地点) |

鎌倉の埋蔵文化財 21

発行日	平成30年(2018)3月30日
編集・発行	鎌倉市教育委員会 〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号 TEL: 0467 (61) 3857 FAX: 0467 (23) 1085 E-mail: bunkazai@city.kamakura.kanagawa.jp
印刷	株式会社ポートサイド印刷
